

## 市民説明会・パブリックコメントの検討結果（案）

## ＜市民説明会＞

意見	回答
素案 P55 に多世代間での住民の交流が課題とあるが、まさにそうだと思う。今以上に多世代間での交流を増やしてほしい。	地域づくりについては、多世代がどうやるかについて重要なポイントである。社会福祉協議会では「ふれまち」で 10 数年多世代間交流を行っている。そのような取組をモデルとして、これからも西東京市として取り組んでいきたい。
高齢者に対する支援の充実を図るとあった。健康な高齢者に対する手段として老人会があり、補助金を出していただいている。しかし、年々補助金を出す活動範囲が厳しくなっている。なぜ補助金が減らされるのか。健康な老人が健康を維持していくための活動に対する支援も考えていただきたい。	単位老人クラブ、高齢者（老人）クラブ連合会の年間活動に対して、都と市から補助金を交付しています。社会奉仕活動、健康をすすめる活動、生きがいを高める活動をすべて行う老人クラブに対して、その活動に必要な経費として認められるもののみを補助しています。各クラブから年度末に実績報告書を提出していただき領収証等で内容確認をし、補助金の精算をしております。各クラブに配布しております補助対象外経費一覧に記載のあるものは補助対象外となりますので、各クラブの経費で賄っていただくことになっております。
本日参加している住民について、どのような立場の人を呼んだのか。	本来市民の方全員を対象にすべきであるが、単位老人クラブの会長、いきいきミニデイ協力者の方等を対象に開催通知案内を送付し、参加の呼びかけを行っております。
P82 に記載の「高齢者クラブ」、「老人クラブ」、「いきいきミニデイ」のそれぞれの違いについて教えていただきたい。	東京都や西東京市の要綱上では、「老人クラブ」という名称になっていますが、西東京市老人クラブ連合会の通称名として「西東京市高齢者クラブ」と称しています。市内在住の 60 歳以上の方が 30 人以上集まってつくられた会員組織団体が「老人クラブ」です。単位の「老人クラブ」

	<p>を取りまとめて活動している組織が「高齢者（老人）クラブ連合会」です。社会奉仕活動、健康をすすめる活動、生きがいを高める活動をすべて行う老人クラブに対して補助金を交付しています。高齢者の幅広い社会参加活動を通じ、自らの生きがいや健康の保持増進を図るとともに、地域社会を豊かにすることが期待できます。</p> <p>「いきいきミニデイ」については、地域住民が中心となり、一人ぐらし、虚弱等で閉じこもりがちな高齢者に趣味、レクリエーション、学習等の生きがいの場を提供し、高齢者の孤独感の解消や社会とのつながりを深めることを目的に実施しています。ミニデイ協力者に活動費の一部を費用負担しています。（平成 28 年 3 月 31 日をもって、新規申請の受付は終了）</p>
<p>「シニア健康スポーツフェスティバル TOKYO」のような、高齢者を対象としたものを西東京市でも開催してほしい。高齢者が活躍している場を他の高齢者が見ること、生きがい等にもつながると思う。</p>	<p>スポーツフェスティバルについては市で独自にやっているわけではないが、ゲートボール、ペタンク、グランドゴルフ等については市内のグループで大会等を開催している。</p>

### <パブリックコメント>

意見	検討結果
<p>現在私の妻が脳梗塞で施設に入っているが、同じ頃近所の女性数名も脳梗塞になり、1名は亡くなった。また、足を骨折するなど介護を必要とする事態が発生しています。突発的なため予防は難しく思います。高齢者が多くなる現在、先が案じら</p>	<p>脳梗塞等を含む生活習慣病や骨粗しょう症の予防は、日頃の食・運動習慣が重要と言われており各種予防事業を開催しています。また、突然の介護が必要になった場合も、地域の相談機関として地域包括支援センターが機能するよう周知に力を入</p>

<p>れます。</p>	<p>れていきたいと考えています。</p>
<p>西東京市高齢者クラブ連合会、加盟クラブ39クラブ、会員数2,300名。高齢者クラブでは、日常の活動として会員間（一部会員の知人）の訪問見守り及び声かけ活動を行っている。平成28年度、各クラブからの活動実績報告では、訪問活動の回数が4,118回となっていることから、素案61頁総括(1)地域で支え合うしくみづくりに高齢者クラブも参加して、支援活動の一助になればと考えます。現に東村山市では平成25年3月、市と東村山市老人クラブ連合会が「高齢者等みまもりに関する協定書」をていけつしている例もあり、西東京市でも検討いただけるかと思い提案する。</p>	<p>「ささえあい協力団体」の登録についてご説明させていただき、今後は西東京市高齢者クラブ連合会として、ささえあい協力団体に登録をし、地域の見守り活動にご協力いただけることとなります。</p>
<p>1.記述が冗漫で分かり難い。 一例として第1部・総論 について</p> <p>① 第1章：要点のみを記載し、諸データ、アンケート、調査結果は添付資料とする。</p> <p>② 第2章：6期の成果は極力数量的に表示する。</p>	<p>① ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>② 数量的な成果の把握については、本計画において数値目標をたてることにより、今後の課題とさせていただきます。</p>
<p>2.健康づくり、介護予防施策をより戦略的、具体的に構築する。</p> <p>(1)メタボ、ロコモ、認知症等の「老人病」の予防、早期発見、早期治療の仕組みづくりを明確に示して欲しい。「老人病」初期段階は医療機関の受け入れが不備なため市の保険機能が担うべきであろう。認知機能の維持、改善活動については地方自治体の成功事例が多々報道されている。</p> <p>(2)予防活動参加への動機づけとして、市の健康診査に合わせ体力・認知機能検査の実施を提案する(例、70歳以上希望</p>	<p>(1)メタボリックシンドロームについては健診事業として、ロコモティブシンドロームについてはフレイル(虚弱)チェックとして、認知症については認知症初期集中チームとして、早期発見、早期対策につなげる取組を進めています。今後も他市の事例等を参考にして、予防事業に取り組んでまいります。</p> <p>(2)予防活動への動機付けは、健康診査の受診機会を通じ、必要に応じて指導しています。</p> <p>認知機能等については、現在、西東京市医師会の公益事業において検証が行われ</p>

<p>者)。検査結果に応じた予防、改善メニューを準備する。</p>	<p>ており、その結果を通じ検討してまいります。</p> <p>また、対象者の結果等に応じて、健康教室やフレイル事業等の紹介も行っていきます。</p>
<p>市民誰もがいずれお世話になる施策幅広く、丁寧にアンケートや聞き取りなど行い策定されたようです。</p> <p>ただ、コンサルに1000万円 116ページ 国の指示で作ったものですか？</p> <p>情報公開室でも様々な施策が、分厚く並べられています。</p> <p>施策計画だけで、どれだけ周知実行されているのか？</p> <p>「国民保護計画」や「原発の避難計画」もそうだと思いますが、政府が、計画だけ作らせて「やっています」というのは、迷惑です。公務員は、それで飯を食っているのでしょうか、市民の税金です。</p> <p>気がついたところで意見を少し提出致します。ご回答を願います。</p> <p>1. 公園配置計画でも、健康づくり推進プランでも、人口予測等様々なデータが出ておりますが、</p> <p>2. 総合計画審議会でも出ているのではないかと思います。</p> <p>コンサルが違い、重複して出しているのではないかと危惧します。</p> <p>企画課が、必要なデータを各課に配信すれば、良いのではないのでしょうか？</p> <p>今後ご検討をお願い致します。</p> <p>3. 高齢者に限らず、まちへ出る、人と交わる、何かをする・・・図書館や公民館・地区会館他老人施設子どもの施設等市民が無料で自主的に活動できる場の保障は特に大事です。</p>	<p>・西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画は3年に1回策定しており、3年後の各施策の目標を定めております。</p> <p>その間にも毎年、施策の達成状況を確認し、見直しを行いつつ、最終的に3年後に成果・課題を検証し、次の計画へつなげております。</p> <p>1.2.人口予測等のデータは、市企画政策課で作成したものを使っております。</p> <p>3.高齢者福祉分野においてこれまで構築してきた地域包括ケアシステムを、障害者や子どもなどの分野にも広げるとともに、市民や関係団体による主体的な支え合いの活動を支援することにより、誰も</p>

<p>サークル活動では、市民同士が仲間を気遣い合っています。行政では手が届かない部分です。</p> <p>4. そこで、安全に歩ける道が一番に求められるわけですが、解決の方策として「都市計画道路の整備」が、上げられております。新たな都市計画道路は、今までなかった道路、そのけそこのけ住まいや緑地を壊し、車の道路を作ることで、都の予算とはいえ莫大な資金を使います。これは、市民の税金でもあります。むしろ、今工事中の都市計画道路も凍結。緑の回廊とし、</p> <p>5. 人と自転車だけのみちにし、ジョキングや犬の散歩道にすれば、安全で健康にも良く、まちの景観、防火地帯にもなります。</p> <p>都市計画道路は、いりません。市長のご見解を求めます。</p> <p>6. 東京都に対し、既存の道路狭い青梅街道等を50年100年かけてもセットバックするようにさせ、安全に歩けるようにしてください。狭い道路は、警察等と協議し、車の進入禁止、一方通行等で、安全を確保してください。人間歩くのが、一番です。</p> <p>7. 「健康都市」を目差す、市長の指導力で各課の施策においてもまず健康を一番に、市が成すべき事は、歩けるまちづくり、そして、歩いた先に緑や公園、ひとりいつでも行ける図書館や公民館・地区会館・子どもや老人施設　そして無料であること。</p> <p>まちのランドデザインが必要です。</p> <p>今後　みんなお世話になります。出来るだけ、市民同士が支え合って元気で老いる事の出来るように。安全に歩けるまち</p>	<p>が安心して暮らせる「地域共生社会」の実現を目指します。</p> <p>4.5.都市計画道路は、自動車交通を円滑に処理する役割を持つだけでなく、快適な歩行空間を提供すること、住宅地や駅周辺などへの通過交通を抑制すること、延焼遮断帯として防災性を向上させること、自転車の走行空間を拡充すること、緑豊かな道路空間を形成することなど、多様な機能を持っています。</p> <p>西東京市では、安全性や利便性を考慮しつつ、都市計画道路の整備を進めていきます。</p> <p>6.既存の都道の拡幅につきましては、東京都にご要望をお伝えするとともに、狭い道路の安全対策につきましては、警察等と連携し、速度抑制や交通規制など地域の実情に即した対応に努めていきます。</p>
---	--

を一番に目指してください。	
---------------	--